―話　題―

漢方薬の副作用

付属病院東洋医学科　**三浦　於菟**

小柴胡湯による間質性肺炎の死亡例以後，漢方方剤の副作用問題は東洋医学界の大きな問題となっている．本科では第一病院東洋医学センター時代より，この問題に取り組み，その結果を発表してきた[1,2]．そこでこの検討結果を中心にしてこの問題を考えてみたい．

副作用の認識: 漢代（紀元前後）の“神農本草書”には，副作用が出現しやすい薬物が分類されており，古来より副作用の存在は知られていた．後世の漢方薬学書には，附子（トリカブト）などの毒性薬物，妊婦禁忌薬，投薬禁忌状態，毒性薬緩和方法などの記載があり，副作用は漢方薬学習の重要事項であった．漢方薬安全神話は近年の産物に過ぎない．

頻度と出現時期: 頻度の研究は，当科の検討以外にはない．3,977の処方件数中41件(1.0%)，これが検討結果である．これは薬品添付文書の“ときに(0.1～5.0%)”に相当し，一定頻度で副作用は出現すると考えるべきである．

78%が3日以内であり，1例を除き10日以内にすべての副作用が出現している．副作用は服用後短期間に出現するものが大多数であり，長期服用途中の副作用の可能性は低い．例外の1例は，長期投与中の漢方薬適応状態（証）の変化による出現である．漫然と投与せず，注意深い観察が必要であろう．

症状と経過: 心窩部痛などの消化器症状(約60%)が最も多く，次いで湿疹増悪などの皮膚症状(約24%)，動悸などの神経症状（約12%）であった．これは他の調査と同様であり，消化器症状が多いことがその特徴といえる．八味丸・四物湯など消化器症状を出現しやすい漢方方剤の投与，さらに胃腸虚弱者への投与に際しては注意が必要となろう．また，皮膚症状は皮膚疾患患者で，神経症状は体を暖める漢方薬（温裏剤）で出現しやすい．

重篤な副作用として附子中毒が知られている．近年では，毒性緩和製剤(炮附子)使用のためか死亡例の報告はない．とはいえ，附子の配合方剤使用に際しては，中毒出現の可能性に留意する必要があろう．附子は神経毒で，シビレ，筋マヒなどの症状が見られる．筆者の経験では，初発症状として舌のシビレや違和感が多く，これらの症状出現時には投与を中止する必要がある．

経過であるが，中止で大多数(約63%)，さらには減量や食後，継続服用で軽快しており，全例良好な経過であった．

原因: 証の見誤り（誤治）による副作用出現．これは主に東洋医学専門医師に多い意見である．たしかに，本検討でも副作用出現方剤の無効率は約66%であり，誤治も一つの原因と思われる．だが約22%の有効例にも副作用は出現しており，原因はこれだけとは思われない．

そこで有効例を検討すると，うち4例は疾病症状の軽快を見ている．本例は東洋医学で言う瞑眩，すなわち症状好転前の有害症状と思われた．民間療法者や一部の東洋医学専門医師の間では，この瞑眩を強調するきらいがあり，またこの瞑眩を漢方方剤副作用の言い訳する民間療法者もいるようである．しかし，実際の出現率は当科検討のように非常に少ない．

瞑眩例以外の有効例の多くは，食後の服用や減量で副作用の軽減を見ており，漢方薬の過剰投与と思われる．これは治療目的の主作用ではなく副次的な作用が前面にでたもの，つまり狭義な副作用によるものであろう．過剰投与で問題となるのは，漢方薬局や中国土産の漢方薬などの自己服用者との重複投与である．この防止として，患者が告知しやすくする配慮も必要となろう．

また，本検討ではアトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患患者の副作用は約29%であり，他の疾患に比べて非常に多かった．これよりすれば，副作用は薬物過敏ものが多いように思われる．田代は漢方方剤のアレルギーが間質性肺炎に関与し，その原因とは①免疫増強成分の存在，②漢方方剤の構成生薬中の黄芩の主成分であるバイカリンの代謝異常，③香気成分中のアルデヒドなどのアレルギー，④粉末顆粒の肺への沈着としている[3]．アレルギーが関与しているとすれば，副作用出現は漢方方剤そのものよりも，投与される個体側の問題が重要となろう．アレルギー性疾患患者や薬物過敏の既往歴を有する患者には，より慎重な投与と観察が必要であろう．

まとめ: 一定頻度で漢方薬の副作用の出現し，見立て違いや過剰投与などの不適切な投与，薬物過敏者への投与などによって出現している．そして，薬物そのものというよりも，患者個人の状態が重要となる点が，その特徴であろう．とはいえ，出現率は低くかつ多くは軽症であり中止によって改善を見ている．投与にあたっては，漢方方剤につき熟知し，適応状態を見極め，投与後も十分な観察を行えば安全性の高い薬物といえよう．

文　献

1. 三浦於菟: 当センターにおける漢方薬副作用の実態調査．和漢医薬学雑誌　1996; 13: 506―507.
2. 三浦於菟: 漢方薬副作用の東洋医学的検討．漢方と最新治療に投稿中
3. 田代眞一: 小柴胡湯による間質性肺炎をめぐって．メデイカル朝日　1998; 27(8): 70―75.

（受付：1999年4月14日）
（受理：1999年4月20日）